

単元番号	言葉の力			
7				
時数	単元を学ぶ目的			
3	この文章から学びたいことは、言葉を単なる「音」や「語彙」としてではなく、それを発する人間の全体の生き方や心のあり方と結びついたものとして捉える姿勢である。桜の花びらが、幹や樹皮、樹液といった木全体を背負っているように、私たちの言葉も、その人間の全体を背負っている。だからこそ、言葉を使うときには、自分の内面や生き方が映し出されることを意識しなければならない。言葉を大切に扱う態度、そして「美しい言葉」「正しい言葉」とは、語そのものではなく、その人のあり方や生き方と結びついたものという理解を学ぶことができる。			
教科書	単元目標			
69 ↓ 70	○本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 ○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。			
ワーク	33 ↓ 34			
日付	No.	参考リンク	目標達成に向けた課題	やることリスト(できたものは✓をつける!)
/	1		①全文を通読する ②語句や漢字を調べる	<input type="checkbox"/> 漢字や語句を調べて、ワークシートを終わらせ、丸をつけた。
/	2		①『言葉の力』の復習をしよう	<input type="checkbox"/> 『言葉の力』のワークシートを終わらせて、丸付けをした。 <input type="checkbox"/> 『言葉の力』のワークノートを終わらせて、丸付けをした。
<p>「言葉の力」は、大きく三つのまとまりに分かれている。</p> <p>まず、筆者である大岡信が「言葉のもつ力」についての主張を述べている(第1段落)。結論をはじめに提示することで、読み手は「これからこの文章では何を伝えようとしているのか」を明確に。</p> <p>次に、なぜそう考えるようになったのか、その主張を支えるエピソードが紹介されている(第2~4段落)。主張を述べるだけでは説得力に欠けるため、理由や根拠をエピソードを交えて詳しく説明することで、読み手は筆者の考えを理解しやすくなる。</p> <p>最後に、そのエピソードと筆者の主張を結びつけてまとめている(第5段落)。理由や根拠を踏まえて、もう一度結論を述べ直すことで、主張がより確かに読み手に伝わる。</p> <p>簡単にまとめると、 ①私はこう思う ②たとえば、こんなことがあった ③だから、私はこう思うのだ という流れになる。</p> <p>それぞれの内容を要約すると次のようになる。</p> <p>①筆者の主張 言葉とは、それを発している人間全体の世界を背負っている。</p> <p>②エピソード 桜の花びらは、桜の樹木全身が生み出している色を背負っている。</p> <p>③まとめ 言葉も桜の花びらと同じである。言葉はそれを発する人間全体の世界を背負っていることを念頭に置き、発すべきである。</p>				

I 言葉の力

名前

二年組番

- 一 次の語句の意味を辞書で調べよう。複数の意味がある場合は、「言葉の力」での用法に近いものに○印を付けよう。

①本質				
②ささやか				
③淡い				
④精髄				
⑤念頭				

- 二 次の語句を使って短文を作ろう。

①いやおうなしに			
②秘める			
③えもいわれぬ			
④			
⑤			

- 三 次の一線部の漢字の読み方を調べ、()に書こう。

- ① 淡い色のシャツを着る。
② 内に秘めた決心。
③ 華やかなドレス。
④ 野菜を煮る。
⑤ 光景が脳裏に浮かぶ。
⑥ 武道の精髄をつかむ。

★ 言葉の力

名前

年組番

Q、「私たちが用いる言葉のどれをとつてみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉はない」とあるが、その理由が書かれている一文を二つ抜き出しなさい。

Q、「別の人気がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない。」とあるが、「それ」が指すものを本文から書き抜いて十三字で答えなさい。

Q、「それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。」とあるが、「それ」の指す内容を「こと」と続くように、本文から書き抜いて答えなさい。

Q、「言葉というものの本質」とはどういうことか、次の中から正しいものを選びなさい。

ア：単独でその価値が決まっている

イ：正しい人が発すれば、いつも同じように正しくなる

ウ：その人の世界は、ささいな言葉一つ一つの定義を背負っている

エ：それを発する人間の美しさと正しさを反映する

Q、「ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人気がそれをも用いたとき同じように美しいとはかぎらない」とあるが、その理由を本文から二十五字以上三十字未満で書き抜いて答えなさい。

Q、「それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。」とあるが、「それ」が指しているものを本文から2字で書き抜いて答えなさい。

Q、「美しい言葉」「正しい言葉」について、筆者の主張と合っているものを次のなかから選びなさい。

ア：その言葉自体に美しさと正しさがある。

イ：別の人用いると、かならず同じ美しさにはならない。

ウ：発する人間の美しさと正しさを反映している。

エ：その言葉の本質が美しく正しいとはいえない。

Q、「実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。」とあるが、「これ」が指す言葉を、本文から二字で書き抜いて答えなさい。

Q、「そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ちている色」とあるが、このような桜色を、本文では他に4つ、違う表現で表している。四通りの表現全てをそれぞれ本文から書き抜いて答えなさい。

Q、「そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ちている色」とあるが、このような色は「いつ」取り出すことができるか。本文から十字で書き抜いて答えなさい。

Q、「そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ち着いている色」とあるが、このような色は「何から」取り出すことができるか。本文から五字で書き抜いて答えなさい。

Q、「私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。」とあるが、このときの筆者の気持ちとして最も正しいものを次のの中から選びなさい。

ア..悲しみ

イ..恥ずかしさ

ウ..驚き

エ..あせり

Q、「私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。」とあるが、その理由を説明したもので最も適切なものを次のの中から選びなさい。

ア..最上のピンク色を取り出すためには妥協を許さない、志村さんの仕事に対する熱意に圧倒されたから

イ..黒っぽいところだけ桜の皮から、美しいピンク色を取り出すことができ、志村さんの熟練した技術に驚かされたから

ウ..尖端の花びらだけでなく、木全体で最上のピンク色になろうとしている桜の木の姿に圧倒されたから

エ..限られた視野の中で、桜の花びらに現れ出了たピンクしか見えていなかつた自分に気づき、驚かされたから

Q、「考えてみればこれはまさにそのとおり」とあるが、「これ」の指す内容として正しいものを次のの中から選びなさい。

ア..「私」が桜の花びらからピンク色を取り出すと思ったこと

イ..ピンク色は桜の皮から取り出されること

ウ..美しいピンク色は一年中どの季節でもとれるわけではないこと

エ..花びらのピンクは、ほんの尖端だけ姿を出したものであること

Q、「木全体の一刻も休むことない活動」とあるが、それは具体的にどのような活動を指しているか。本文の言葉を使って答えなさい。

Q、「たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。」とあるが、「それ」の指す内容を、本文から十三字で書き抜いて答えなさい。

Q、「たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。」とあるが、「はっと驚く」様子を具体的に表現している部分を本文から書き抜いて二十字以上二十五字未満で答えなさい。

Q、「このようにみてくれば、これは言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。」とあるが、「言葉の世界での出来事」が指す内容を、本文の言葉を使つて「～こと」と続くよう二十字以上～三十字未満で答えなさい。

A：同じ言葉でも、それを発した人によって「美しい言葉、正しい言葉」かどうかが変わってくる。

I：最上のピンク色とは、桜の木全体の休むことない活動の精髄によるものである。ウ：桜の木の「木全体」と「花びらの色」の関係は、「人間全体」と「発せられる言葉」の関係と同じである。

E：言葉一つ一つには、それを発する人間全体が反映される。

O：限られた視野では、物事のほんの尖端の姿しか見ることができない。